

R6.4～
新体制

令和6年度 厚生労働省 地域共生社会推進室のご紹介



室長
米田 隆史
Yoneda Takafumi

三重県松阪市生まれ、兵庫県姫路市育ち。好きな食べ物はラーメン、好きなスポーツはカーリング。ライトな阪神タイガースファンで、将棋を観ることが趣味です。令和6年度では社会福祉法の見直しに向けて検討を開始します。論点は多岐にわたりますが、「地域共生社会」の理念が全体を貫く基本軸となることは間違いありません。地に足の着いた議論ができるよう、全国各地の皆様のご意見を伺いたいと考えています。

室長補佐
石原 珠代
Ishihara Tamayo

厚労省に入省して、気付けば10年以上経過しましたが、この間、児童福祉、障害福祉、女性支援等、福祉分野の業務に多く携わらせて頂いてきました。「地域共生社会」の概念は、社会の中に様々な繋がりが生まれることで、社会に暮らす人々が「明日が来ることを楽しみにできる」社会を目指すものではないかと思っています。大きな目標に向け、少しずつでも着実に歩んで行けるよう、沢山の皆様のお声をお伺いしたいと願っております。

吉井 綾音
Yoshii Ayane

私は現場で支援をしている支援者の方々が少しでも働きやすい、長く働き続けられる社会にしたいという思いから、社会福祉について学び、厚生労働省に入省しました。支援者の機能を果たす重層的支援体制整備事業を所管する地域共生社会推進室での業務も2年目となりますので、現場の皆様のお声を聞きながら、地域共生社会の実現に向けてより一層頑張っていきたいと思います。

支援推進官
犬丸 智則
Inumaru Tomonori

共生室での業務も2年目を迎えました。昨年度は、自治体の皆さまはじめ、様々な方からお話を伺うことができ、学びになるとともに、地域共生社会実現に向けた仲間がいることで、エンパワメントされました。ありがとうございました。「わくわく」を大切に、出会いと共感の中で「わが町」の取組を進めていきましょう！皆さまと一緒に「わいわい」話しながら、今年度も頑張っていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

室長補佐
高坂 文仁
Kousaka Fumihio

私は忠犬八公公の生まれ故郷である秋田県大館市の出身で、入省以来、高齢・障害・児童などの福祉行政分野を中心に勤務してきました。2年ほど市役所に出向して自治体の業務に携わったこともあります。地域共生社会推進室は今年で2年目となりますが、ひとりひとりの住民が地域で生きがいや役割を持って暮らしていけるよう、今年もこれまでの経験をフル動員して頑張りたいと思いますので、引き続きよろしくお願いいたします。



係長
石松 香絵
Ishimatsu Kae

今年の4月に着任しました。これまでは高齢者福祉／介護保険関係の仕事が長く、その観点から、地域で暮らし続けるとはどういうことなのか、行政としてそのために何が求められているのか／何を行うべきかを考えてきました。

もちろんこのように、高齢者・障害者・子どもなど属性ごとに考えることも大切ですが、ここ共生室では、その垣根を越えて、「その人」の人生や、「その人・その世帯」が今おかれている状況に着目して地域や社会を捉えていくということで、より幅広い視点で検討することに、日々楽しさや難しさを感じています。

皆様からお話を伺いながら考えていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

相馬 叶実
Souma Kanami

今年の4月に栃木県宇都宮市から出向でまいりました。

都道府県・市町村の皆様がそれぞれ悩まねながらも、その地域においての地域共生社会や重層的支援体制整備事業について真剣に考えられている姿勢に日々圧倒されております。

まだまだ不慣れな点も多くご迷惑をおかけしますが、自治体の皆様と一緒にこの重層的支援体制整備事業を考えていけたらと思っています。

これからどうぞよろしくお願いいたします。

主査
嵩井 千遥
Kasai Chiharu

昨年4月に他省から厚労省に出向してまいりまして、10月から共生室に併任となりました。神奈川県生まれ・神奈川県育ち・東京在住で、地方行政にも福祉行政にも疎い身ですが、地域共生社会とは？重層事業とは？そもそも「地域」で「幸せに暮らす」とは？と、正解があるようでないような、大きなミッションと向き合いながら、今後も地域の皆様がいかにいきいきと活躍できる環境づくりのために、ともに考えていけたらと思います。よろしくお願いいたします。